

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	安全性生物試験研究センター運営費			担当部局	国立医薬品食品衛生研究所			作成責任者	
事業開始年度	昭和52年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務部 会計課			橋本 昌浩	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	-				
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医薬品、食品、食品添加物及び生活関連化学物質の安全性・有効性を確保するための試験・研究に必要な動物実験を円滑に実施するため、実験動物の飼育管理を行っている安全性生物試験研究センターの適正な維持・管理を行うことを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	安全性生物試験研究センターでは、「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する指針」等に準拠した動物実験を行っており、本事業では動物実験が円滑に実施できるようセンターにおける動物飼育室の空調管理及び「動物の愛護および管理に関する法律」等に準拠した各種実験動物の飼育管理等を実施する。								
実施方法	直接実施								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	37	37	37	45			
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計	37	37	37	45	0			
	執行額	37	37	37					
	執行率 (%)	100%	100%	100%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	100%	100%	100%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	庁費	45							
	計	45	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	平成29年度には5,190匹程度の動物を実験に使用できるようにする。	実験に使用した動物数	成果実績	数	5,190	6,071	5,241	-	-
			目標値	数	-	5,190	5,190	-	5,190
			達成度	%	-	117	101	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	実験動物管理表								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	1日当たりの平均飼育数	活動実績	数	4,988	5,170	4,746	-		
		当初見込み	数	6,300	4,988	5,170	4,746		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	執行額(千円)／実験に使用した動物数	単位当たり コスト	千円	7.2	6.2	7	8.6		
		計算式	/	37,354/5,190	37,354/6,071	36,825/5,241	44,680/5,190		

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	施策大目標1 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること										
	施策	XII-1-1 国立感染症研究所など国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること										
	測定指標	定量的指標					単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 29 年度
		国立医薬品食品衛生研究所における研究課題評価(毎年度実施)で平均3.5点を取得する。 ※総合評点は5点満点で、3点で「良好」の評価				実績値	点	3.8	4.4	4.3	-	-
						目標値	点	3.5	3.5	3.5	-	3.5
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	安全性生物試験研究センターにおける「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する指針」等に準拠した動物実験が円滑に実施できるようセンターにおける動物飼育室の空調管理及び「動物の愛護および管理に関する法律」等に準拠した各種実験動物の飼育管理等を実施する。 これにより、医薬品、食品、食品添加物及び生活関係化学物質の安全性・有効性を確保するための試験・研究に必要な動物実験の円滑な実施に資するもの。											
	改革項目	分野:	-									
	アクション・プログラム (第一階層)	KPI (第一階層)					単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		-				成果実績	-	-	-	-	-	-
目標値						-	-	-	-	-		
達成度						%	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												
事業所管部局による点検・改善												
国費投入の必要性	項目					評価	評価に関する説明					
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。					○	国民の健康安全等を確保するために必要な研究を行うための実験動物の管理を行っており広く国民のニーズがあり、国費の投入が必要である。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					○	国の試験研究機関である当所において実験に用いる動物の飼育管理等を行うため、国で実施することが適当である。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。					○	国民の健康安全等を確保するために必要な研究を行うための実験動物の管理を行っており優先度が高い。					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。					○	会計法に基づき一般競争入札を実施し、競争性を確保した。また、随意契約の場合であっても複数者から見積を徴収し、最廉価格の者と契約を締結した。競争性のない随意契約となったものは、光熱水料によるライフラインに係る経費のみである。					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。					無						
	競争性のない随意契約となったものはないか。					有						
	受益者との負担関係は妥当であるか。					-	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。					○	妥当なコストとなっている。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					-	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					○	真に必要な経費のみ支出している。					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)					-	-						
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)					-	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。					○	調達の際に競争性を保つことで、より効率的な予算の執行に努めている。						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。					○	目標に見合ったものとなっている。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。					○	事業目的達成のために効率的な方法で実施しており、また毎年度成果も着実にあげていることから、他の手段と比較して、実効性は高いと考えられる。					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					○	見込みに見合ったものである。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					○	センターを適切に維持管理したことにより、医薬品、食品、食添加物及び生活関連化学物質の安全性の評価に必要な動物実験を実施することができた。					

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
	-	-	-

点検・改善結果	点検結果	・執行管理表により支出先及び用途等について管理を行い、適切な経費の執行に努めている。 ・医薬品、食品、食品添加物等の安全性の評価の為に、平成28年度においては、5,241匹の動物を実験に使用した。
	改善の方向性	適切に予算を執行し、事業の目的を達成できているため、引き続き経費の適切な執行及び目的の達成に努める。

外部有識者の所見

--

行政事業レビュー推進チームの所見

--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

--

備考

--

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	581	平成23年度	468	平成24年度	468	
平成25年度	852	平成26年度	852	平成27年度	863	
平成28年度	832					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



